

2022年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2023年 3月31日

学校法人聖十字学園

幼保連携型認定こども園聖十字幼稚園

1. 本園の保育教育目標

愛のうちに喜びをもって生き、自分の力で発見し、つくり出しつつ、みんなと共に伸びゆく子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画、および、取り組み状況と課題

- ① コロナ禍の中、自分や他者の身を守るために望ましい生活習慣を身につける。同時に、感染対策を取りながら、乳幼児の体験的な学びの場を出来るだけ豊かに作りだす努力をする。
⇒コロナ陽性者が多数判明した時期が2度あったが、保護者の理解と職員の協力体制によって乗り越えることができたのは感謝だった。十分とは言えないが、さまざまな工夫が出来た。
- ② 今年度は、聖十字幼稚園で勤務するのが初めてという保育教諭の多い一年である。聖十字幼稚園がひとつの園として歩めるよう、職員相互の連携を重視する。
⇒「まず一年間を共に過ごして、聖十字幼稚園を知る」ことを、新卒の保育者にも、他園で経験のある保育者にも求めた。同時に、出来るだけ提案や発想を受け入れ合うよう努めた。しかし、日常の慌ただしさの中で互いに連携していく気持ちのゆとりをもつことは課題として残った。
- ③ 処遇改善加算対象の研修会に参加し、時間数を積み重ねるだけでなく、学んだことを職員相互に情報共有し、本園の保育教育の質の向上に寄与する意識をもつ。
⇒ 昨年度より園外研修会の開催が増え、参加を推進できた。夏の園内研修が対象と認められ職員が共に学べたのは、共通理解をもって保育教育にあたる事に繋がり、大変良い機会となった。

3. 教育・保育面での評価項目の評価、および、取り組み状況と課題

(A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	本園の教育保育方針に基づいた保育計画→実践→評価→改善のサイクルに努めた。新しい担任のクラスが多い年度でもあり、互いに報告・連絡・相談をもって教育保育計画を立て実施していく事が困難な場面があった。
2	保育のあり方、乳幼児への対応	B	子ども一人ひとりが、主体的対話的に遊びや生活や活動に関わり学びを積み重ねられるよう、環境設営や働きかけを工夫した。「不適切な保育」による事件が繰り返された一年だったが、本園でも教育保育の見直しを行っていきたい。
3	保育者としての資質と能力	A	どの保育教諭も、子どもの利益を最優先にしたいとの思いで勤務している。経験のある保育教諭が未経験の保育教諭に活動内容を具体的に伝え実行する等、今年度の事情ならではの姿があった。今後も経験を積んで行くよう期待する。
4	保護者への対応	A	昨年度に引き続き、コロナ感染対策のための園行事中止等が多くあったが、保護者の理解と協力と支援を得られたことは本当にありがたい事だった。子どもの園生活の様子を伝えるよう努め、徐々に行事参加人数を増やして来た。
5	地域の自然や社会との関わり	C	0歳～2歳児は散歩が日々の活動そのものだが、年少児以上は園外保育の機会を設けることが少ない。園庭や室内に「小さな自然」があるが、職員が日常的な世話や後始末等の扱いに慣れていないため、関わりが消極的になりがちだ。
6	研修と研究	A	研修会参加によって自分の世界が広がったと感じた保育教諭もおり、知らなかった自分に気づき、知ることの面白さを楽しめた。オンライン研修が主流だったが、次第に対面での開催が増えてきた。他クラスの教育保育を見学しての園内研修や、他園の見学を通して学ぶ機会を積極的に作る必要性を感じている。

総合的な評価結果 B

1. 2022年度事業報告に関して

1 委員・コロナ禍の中で園行事縮小との報告だったが、今後大事にしたい園行事は何か。

園長・保育参観日やクラス懇談会など保護者同士が会う機会や、近隣住民や園児の家族が園を自由に入出入りできる地域に開かれたバザー、卒園児が楽しみにして参加して来た運動会や同窓会を大事な行事だと思っている。今年度はこれまで通りの実施はできなかったが、感染対策を取りながら工夫して行った行事もあった。

委員・子育て中の方が孤独にならないような、コロナ禍でも楽しめる行事が行えるようになると良いと思う。園行事の復活を望みます。

2 委員・マスク着用の悪影響を思う。全体的に暗い印象で、先生の声が小さく感じた。口元が見えない分、身ぶり手ぶりを大きくしたり、大げさに思うくらいの表情にしたりして伝えることも大事なのではないかと思う。表現力豊かに子どもたちと接する保育であってほしい。

2. 2022年度保育教諭による自己評価結果に関して

1 委員・地域の自然との関わりの評価が低いことについて。キリスト教の良さを生かしながら、街中ではあるが、よく見ると存在している身近な自然との関わりを大事にしてほしい。

2 委員・自分が勤務する園では、ドキュメンテーション記録をもとに保育者同士が子どもの姿を豊かにとらえようと園内研修を行っている。子どもの姿をしっかりと捉えて保育を組み立てていくためにも、必要なことと考えている。

3. 2022年度保護者アンケート結果に関して

委員・コロナ禍を理由に行事の変更になることの連続だったと思われるが、逆に、これまでのことを見直す良い機会になったとも言える。面倒だからこの行事は止めよう、というのは避けて欲しいと思う。

行事が減ることは、子どもたちにとって楽しみな事が少なくなって来ていることにはないか。その行事は子どもたちにとってどういう意味があるのかも同時に見直すとよいかもしれない。

4. 2023年度事業計画に関して

委員・保育中に子どもたちから離れて打ち合わせをするのは、働き方改革の為か。

園長・そうではなく、子どもたちのいる場所で保育者同士が立ち話をする場面を指している。今年度は新人が多く、確認をとりたい職員の姿が目立っていた。

5. その他

1 委員・4月からのマスク着用はどうするのか。

園長・園児は基本、着用は求めない。職員は室内では着用、屋外では各自の判断だが、個人の自由という面は尊重する。大型連休明けの5類への変更の際に、状況を見て判断したい。

2 委員・先日、自分が勤務する園を卒園していった子どもたちは、在園中の3年間コロナ禍にあったが、その子どもたちがコロナ禍のマイナス面を見るだけではなく、コロナ禍のプラス面にも目を向けて生きて行って欲しいと思う。